



▲テリミノイヌホオズキ。果期（'07.12.10，小田原市）

テリミノイヌホオズキ [ナス科]

Solanum americanum Mill.

(= *S. nodiflorum* Jacq.)

(E) American black nightshade

北アメリカ原産の一年生または短命な多年生草本。花は8～12月。花序は5～10個が散形に着き、花冠は白色で小さく直径4～6mm。果実は球形で直径4～7mm、強い光沢があり、熟すと果肉から黒紫色になり、30～70種子を入れ、球状顆粒を0～4個含む。種子は直径約1.5mm。茎や葉の性質が異なる植物がいくつか知られるが、最も多く見られるものは、茎は軟質で、よく分岐し、長く伸びると倒伏して地面に広がり、葉は卵形または三角状卵形、基部よりの半分に波状の浅い切れ込みがあり、全体に毛は少なく、下面

脈上にもみ短毛があり、小花柄は曲がり、果実は垂れ下がり、果実中に球状顆粒を1～4個含むものである。テリミノイヌホオズキははじめ台湾産の*S. proteincarpum* Nakam. et Odash. の和名としてつけられたもので、のちに北アメリカの*S. americanum*と同じものとされた。変異が多く、茎や葉の性質は上記記載とはあわないものもある。220頁のカンザシイヌホオズキも花、果実、種子の性質はテリミノイヌホオズキと変わるところがなく、*S. americanum*の変異に含まれる可能性がある。なお、アメリカイヌホオズキは本種とは別のものので、*S. ptycanthum* Dunal である。

[文献] 529p